

大人が絵本を 第17回 10月22日



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*
小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

認識絵本の原型は「図鑑」なのです

絵本と図鑑に特化した“絵本と図鑑の親子ライブラリー”から発信させていただいております「大人が絵本を手にするときは!」、楽しんでいただけていますでしょうか。絵本について様々な角度からお話していますが、当館が専門としている「絵本」と「図鑑」の関係についてお話を続けましょう。

新生児期から乳児期と、リズム絵本、オノマトペ絵本、わらべ歌絵本でたっぷり遊んだ赤ちゃんが、乳児期後半になって次に楽しむ絵本は、認識絵本です。認識絵本は、ものの絵本とも呼ばれており、果物、乗り物、動物などが1種ずつ、はっきりした絵で描かれ、お父様お母様の声で発するそのものの名前によって、身の回りのものへの関心を高め、認識していく絵本群です。ものづくしが基本型で、文字は絵の説明的表現になっていて、のちの図鑑、図説に発展するのです。

認識絵本とは、図鑑の原型と考えられています。実物を見た後に、絵本でその事物と名前を再確認したり、絵本の事物を見てから実物を再認識したりして、乳児は認識能力を伸ばしているのです。人は、赤ちゃんの頃から既に認識絵本という「図鑑」と接し、少しずつ知識を蓄積しているのです。

そして、1歳前後になって自分で絵本を手にとれるようになると、「アンパンマン」や「トーマス」、「リカちゃん」「キティちゃん」など、手に持ちやすい小さな解説付きのキャラクターミニ図鑑を自ら手に取るようになり、お父様お母様の所へ持って行き、「読んで」とリクエストするようになるのです。これこそ、子どもが自らの行動でもって入り込む「本」の世界なのです。

認識絵本やキャラクター図鑑をきっかけとして、事物への興味関心は猛スピードで高まります。当館が絵本の図書館の領域を越えて、絵本と図鑑を専門としたことに納得いただけるのではないのでしょうか。

10月22日は「図鑑の日」

当館では「絵本の日」に続き、「図鑑の日」を一般社団法人 日本記念日協会¹⁾に登録しました。記念日は10月22日です。この10月22日とは、日本で最初に「図鑑」という名称を使用した『植物図鑑』の初版が発行されたのが1908(明治41)年の同日によることにちなんでいます。この『植物図鑑』は村越三千男氏が創設した「東京博物学研究会」において、村越氏が収集した植物標本に高柳悦三郎氏とともに自らが解説を付け、それを牧野富太郎氏が校訂を行い、参文舎より出版されました²⁾。

東京博物学研究会
編集(村越三千男 著)
『植物図鑑』
初版の奥付(参文舎)

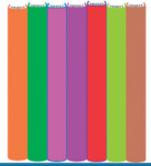
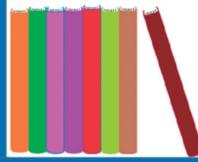


「図鑑の日」は言葉や絵、図形などから形のあるものを立体的に捉え、創造力を育む図鑑の力を多くの人に知ってもらうことと、子どもから大人まで図鑑に親しむ環境を整えることを目的とした記念日です。当館ではこの「図鑑の日」と図鑑の普及につとめていきます。

「植物図鑑」をめぐる秘話

この『植物図鑑』の裏には、知る人ぞ知る因縁的エ

手にするときは！ は「**図鑑**の日」



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



ピソードがあります。植物学者の先駆者といえば、伝記でもよく取り上げられている牧野富太郎氏が著名です。俵浩三氏は著書『牧野植物図鑑の謎』で、「牧野『日本植物図鑑』は村越の『植物図鑑』を土台に大改訂したものであり、村越の図がそのまま残っているものも多く牧野の著作物とは言えないものであった」³⁾と両者の比較研究で明らかにしています。

『日本植物図鑑』は元々、村越三千男画、高柳悦三郎編、牧野富太郎校訂で、1906年から『普通植物図譜』の名称で刊行を始め、最終的に5巻60集で発行されました。刊行後も牧野・村越共編で前出の『植物図鑑』(1908年)などが発行されるのですが、出版元の参文舎の社長が死去したことで同社の経営が悪化し、『植物図鑑』の著作権が北隆館に移ることになったのです。その北隆館で同図鑑を発行する際に、それまで東京博物学研究会の代表者として掲載されていた村越の名前が消され、牧野富太郎の『植物図鑑』として発行されることになったのです⁴⁾。

日本植物学の父と言われ、表舞台で活躍した学者・牧野富太郎と、民間の植物学研究者でほとんど記録が残っていない村越三千男の二人の間には、深い因縁めいた関係があったのです。本誌面では、これ以上二人の関係や『植物図鑑』発行までの裏事情の細部に言及しませんが、興味を持たれた方は、平凡社新書『牧野植物図鑑の謎』をお読みください。かなり興味深い実態が明かされています。



図鑑ブームが起こった！

この図鑑にブームが巻き起こったことをご存知でしょうか。それも数年前のことで、2010年に到来し、ピークは2年間続きました。ブームのきっかけとなったのは、なんと子ども図鑑で、2009年に発行

された『小学館の図鑑NEO+くらべる図鑑』(定価1,995円)が爆発的に売れたことに端を発します⁵⁾。

子ども向け図鑑が誕生したのは、1956(昭和31)年に創刊された「小学館の学習図鑑」シリーズが先駆けと言われています。鳥、動物、昆虫、宇宙、人間など種類別に編集されていて、当初の価格はケース入りで350円でした。内容は、形と名前、特徴、飼育法、栽培法などが書かれていて、絵のついた辞書のようなものでした。1973年に刊行された同シリーズのリニューアル版「新学習図鑑」シリーズでは、紹介する昆虫、植物、動物などの種類が増え、今のような写真が使われるようになりました⁶⁾。

そして、2010年の図鑑ブームの到来です。それまでの種類別の編集ではなく、『くらべる図鑑』のような「くらべる」をキーワードにして、乗り物や動物などの早さを比べたり、恐竜や現代の建物の大きさを比べたりして、生き物、乗り物、世界と日本など、様々なテーマを一冊にまとめた「新型図鑑」が生まれたのです。

教育評論家の親野智可等氏は、従来型の図鑑を「博物型図鑑」と呼ぶのに対し、新型を「テーマ図鑑」と呼んでいます⁷⁾。他にも『ふしぎの図鑑』や『なぜの図鑑』など、子どもたちが興味を持って読めるテーマを選びすぐって、ワンテーマ見開きで展開されていて、事典よりも絵本に近いつくり方になって



『小学館のNEO+くらべる図鑑』
(小学館)





いるので、読み物としても楽しめる構成になっています。

さて、図鑑ブームの火付け役『くらべる図鑑』ですが、初版7万部で刊行され、2010年2月には54万部まで伸長、翌年には69万部に到達しました⁵⁾。年間3万部売ればヒットと言われるこの分野での快進撃を受けて、図鑑の老舗である学研も新型図鑑分野に参入し、主婦と生活社など他社も後に続きました。「実物」大図鑑や、「秘密」、「一生」、「一番」などを切り口にして、今、図鑑が進化しているのです。

子ども図鑑だけでなく大人向けの図鑑も人気で、2010年、2011年と各社の刊行が目立ちました。特に河出書房新社が海外版權を活用した『サイエンス大図鑑』『骨から見る生物の進化』などは、ビジュアルの美しさとテーマ設定が受け、価格は5千～1万円台と高額ながらも人気を博しました⁸⁾。

出版年報をまとめている公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所は、子ども・大人向け図鑑のブームを「単発で購入できるテーマ別の図鑑は、高価格であっても切り口やビジュアルの訴求力で世代を問わず人気が高く、今後も潜在ニーズのあるジャンルだ⁸⁾と2011年に分析しています。その分析どおり、翌2012年は、大人向けのビジュアル本や図鑑がヒットし、東京書籍の『地球生物学大図鑑』(定価9,500円)は美しさと資料性の高さで累計1万2千部と、この類の図鑑では異例の人気となり、同所は「紙媒体書籍の存在感を示した⁹⁾と報告しています。

このように言われてみると、図鑑の形態が何やら

変化していることに改めて気付く方もおられるのではないのでしょうか。



図鑑であそぶ



インターネット、スマホ時代、ネットで調べれば簡単に答が出るでしょう。しかし、ネット検索では得られない魅力と楽しみが図鑑にはあるのです。自分の手で紙のページを開くと、知りたかったこと、調べたかったこと以外の情報が、系統的に目に飛び込んでくるのです。

それから大事なことがひとつ、これから学び始める子どもたちや、現在、学習過程途上にいる児童・生徒には、インターネット上の情報の正誤判断ができません。間違った情報をキャッチしないように、発信元の信憑性の判断ができる年齢になるまで、調べものの基本的情報源は、図鑑や事典とする必要があります。紙媒体の検索ツールを使いこなすことで、関連用語の抽出や、情報検索の拡大・縮小などの技術が身に付き、情報をうまく操作できるようになるという利点も、冊子体は持ち合わせているのです。これこそ、「メディア・リテラシー」と言えます。

子どもたちの「どうして？」に対し、「図鑑で調べてみよう！」と親子で一緒に調べることで、こういうときに図鑑を使えば答が出てくるということを子どもたちへ自然と伝えることができます。そして一緒に調べるということは、図鑑の使い方を学ぶことにもつながりますし、絵本と同じように親子のコミュニケーションとなります。それは「学習」という意識ではなく、いわばクイズの答を考えるような、楽しんで答を探す遊びなのです。

このとき、気を付けてほしいことは、調べたいテーマのページに行きつく前に、お子様が他のページや写真に興味を示したなら、ぜひとも先を急がずに、ゆっくりと寄り道をしてください。そんな活用こそ、図鑑の醍醐味なのです。図鑑がボロボロになればなるほど、お子様の知識量が増しているのです。

デイヴィッド・バーニー 編集
西尾香苗ほか 翻訳
『地球生物学大図鑑』
(東京書籍)



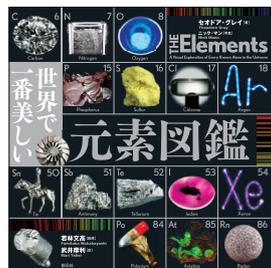
前出の親野智可等氏は、著書『頭がいい子の図鑑の読み方・使い方』で、「図鑑はただ『眺める』のではなく、『使いたおす』ことで、子どもの能力を最大限に伸ばし、自然に学力を上げてくれる」¹⁰⁾と評しています。遊びや会話、街中で見つけたもの、ニュースなど日常生活のありとあらゆる場面で見つけたハテナを、図鑑を使って親子で解明する習慣が、子どもたちの生きる力となるのです。

待合室に子ども図鑑と大人図鑑を置こう

子どもたちには「使いたおす」ことが勧められています。大人にとってはずっと眺めていても飽きない図鑑です。しかし、大人になって図鑑を楽しむ機会が減ってしまった方もおられるのではないのでしょうか。図鑑ブームで登場した『地球生物学大図鑑』（東京書籍）や『世界で一番美しい元素図鑑』（創元社）を始めとする美しいビジュアル図鑑は、眺めるだけで癒されるし、知識の再確認や新たな知識の習得にもフル活躍して、重宝される図鑑です。大人の皆さんの好奇心をくすぐる図鑑がたくさん登場しているのです。

そんなわけで、待合室本棚に大人向け図鑑と子ども向け図鑑を選りすぐって置いてみるのも、歯科医院として話題性になっていかもかもしれません。子ども図鑑は、待ち時間に絵本と合わせて親子のコミュニケーションツールとなりますし、診療中は、歯科医師や歯科衛生士とクイズをしながら、子どもがリラックスできるという効用があります。何より、スタッフと子どものコミュニケーションを深めること

セオドア・グレイ 著
ニック・マン 写真
武井摩利 訳
『世界で一番美しい元素図鑑』
(創元社)



ができます。

小児歯科医院の待合室に一冊置くなら、やはり『くらべる図鑑』がおすすめです。続編の『もっとくらべる図鑑』と、『くらべる図鑑クイズブック』（小学館）も発行されているので、3冊揃えると、より楽しめること間違いありません。「クイズブック」はポケットサイズですので、歯科衛生士のポケットに忍ばせて、ベッドサイドでクイズをして楽しんではいかがでしょうか。

10月22日は
「図鑑の日」



文献

- 1) 一般社団法人日本記念日協会 HP
<http://www.kinenbi.gr.jp/>
- 2) 俵浩三：牧野植物図鑑の謎(平凡社新書)，平凡社，1999，pp.38-43
- 3) 同上，pp.135-163
- 4) 同上，pp.72-97
- 5) 社団法人全国出版協会・出版科学研究所：2012年版出版指標年報，全国出版協会・出版科学研究所，2012，pp.143-145
- 6) SHOGAKUKAN INC HP：トップブランドができるまで～『小学館の図鑑NEO』シリーズ～
<http://jinji.shogakukan.co.jp/>
- 7) 親野智可等：頭がいい子の図鑑の読み方・使い方，あさ出版，2013，pp.34-38
- 8) 社団法人全国出版協会・出版科学研究所：2012年版出版指標年報，全国出版協会・出版科学研究所，2012，p.122
- 9) 社団法人全国出版協会・出版科学研究所：2013年版出版指標年報，全国出版協会・出版科学研究所，2013，p.119
- 10) 親野智可等：頭がいい子の図鑑の読み方・使い方，あさ出版，2013，表紙カバー折り返し